

主催 ● 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター
共催 ● 富山県「立山博物館」



7/29日

10:00開始
(17:30終了)

三禅定絵解きフォーラム

立山・白山・富士山と参詣曼荼羅の世界

三禅定とは、立山・白山・富士山の頂上(禅定)をめぐる修行のこと

使用画像

右 「立山曼荼羅大仙坊A本」

左 「白山曼荼羅能美市本」

中央 「富士参詣曼荼羅松栄寺本」

午前 聖徳太子伝絵解き／報告「富士参詣曼荼羅の特質」
午後 シンポジウム……司会 ● 阿部泰郎

「三禅定の世界と参詣曼荼羅絵解きの試み」

講師 ● 加藤基樹・小阪大・大高康正

講演「立山信仰と三禅定」福江充

入場無料
来聴歓迎

名古屋大学東山キャンパス
野依記念学術交流館カンファレンスホール(2F)

●名古屋大学駅(名古屋市営地下鉄名城線)②番出口 徒歩5分

お問い合わせ ● 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター
Tel: 052-789-5993 e-mail: nagoya.cht.archives@gmail.com

JSPSグローバル展開プログラム「絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信」

科学研究費補助金基盤(S)「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究—人文学アーカイブス・ネットワークの構築」研究代表者: 阿部泰郎

東京大学史料編纂所2018年度一般共同研究「参詣曼荼羅図を中心とする富士山信仰史資料の総合的研究と公開」研究代表者: 大高康正

名古屋大学最先端研究ユニット「文化遺産創成と記憶の力のテキスト学」



科研費
TAKEHITI

日本を代表する名山―靈峰である立山・白山・富士山は、かつて「三禅定」と呼ばれ、三山を巡って登拝する修行が、近世には行者のみならず庶民の間で盛んに行われ、愛知(尾張・三河)はその中心でもありました。三禅定となるそれぞれの靈山には、その修行場となる禅定を中心に、参詣曼荼羅が多く残り、人々が登山する有様が描かれました。これを絵解きするのも禅定へと勧誘する手段だったのです。

◆このフォーラムでは、三禅定それぞれの研究機関の第一線研究者に「三禅定」の先端研究報告をいただき、参詣曼荼羅をめぐるさまざまな角度からの絵解きの可能性を考えます。また、聖徳太子絵伝など、三禅定に関わる絵解き資料を、実演を交えて紹介いたします。ホールには多数の参詣曼荼羅(複製)を集めて御覧いただくと共に、画像によってその細部まで紹介し、「三禅定」の世界の再現を試みます。

スケジュール

10:00—12:00

◆聖徳太子伝絵解き

「黒駒による富士飛翔」末松美咲(名古屋大学 CHT 研究員)

◆報告

「富士参詣曼荼羅の特質―図様解釈をめぐる―」

久野華歩(栃木県立博物館学芸嘱託員・学習院女子大学博士後期課程)

13:00—17:30

◆シンポジウム

「三禅定の世界と参詣曼荼羅絵解きの試み」

司会 阿部泰郎(名古屋大学人文学研究科教授)

報告 加藤基樹(富山県立立山博物館学芸課主任・学芸員)

「『三禅定』史料の紹介―立山を中心に―」

小阪大(白山市教育委員会文化財保護課主幹兼白山手取川ジオパーク推進室員)

「白山参詣曼荼羅の絵解き―加賀禅定道を中心に―」

大高康正(静岡県富士山世界遺産センター学芸課准教授)

「富士山の参詣曼荼羅と三禅定―松栄寺本の絵解きを中心に―」

◆講演

「立山信仰と三禅定」

福江充(北陸大学国際コミュニケーション学部准教授)

総合司会 阿部泰郎 コメンテーター 土屋貴裕(東京国立博物館主任研究員)

特別展示

◆立山曼荼羅
[見附来迎寺蔵・複製]◆白山曼荼羅図
[能美市蔵・複製]◆富士参詣曼荼羅
[天満山松栄寺蔵・複製]◆聖徳太子絵伝
[杭全神社蔵・複製]◆善光寺参り絵図
[新作]◆走湯山秘密絵伝
[新作・下絵]

ほか

プロフィール

加藤基樹 ● かとう・もとき

1975年神戸市生まれ。富山県立立山博物館学芸課主任・学芸員。専門は宗教民俗学・日本近世文化史。立山博物館では、特別企画展「立山・富士山・白山 みのつめぐりー靈山巡礼の旅「三禅定」」展を担当し、「三禅定」の史料を新たな視点から読み直している。

小阪大 ● こさか・ゆたか

1967年金沢市生まれ。白山市教育委員会文化財保護課主幹兼白山手取川ジオパーク推進室員。専門は歴史地理学、考古学。

主な著書・共著に「白山山頂遺跡群について」「白山平泉寺」(吉川弘文堂、2017)、「白山曼荼羅～加賀禅定道～DVD」絵解きシリーズ6(方丈堂出版、2009)など。

大高康正 ● おおたか・やすまさ

1973年静岡県生まれ。静岡県富士山世界遺産センター学芸課准教授。専攻は日本中世史、社会史。研究テーマは寺社参詣史、参詣曼荼羅の研究。著書は「参詣曼荼羅の研究」(岩田書院、2012)、「富士山信仰と修験道」(岩田書院、2013)など。

福江充 ● ふくえ・みつる

1963年富山県生まれ。北陸大学国際コミュニケーション学部准教授。歴史学、民俗学。第9回日本山岳修験学会賞、第3回日本学術振興会賞、第24回とやま賞受賞。「立山曼荼羅―絵解きと信仰の世界―」など、立山信仰や立山曼荼羅に関する著書多数。

阿部泰郎 ● あべ・やすろう

1953年横浜市生まれ。名古屋大学人文学研究科教授。同人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター長。専門は中世宗教文芸研究。著書は「中世日本の宗教テキスト体系」(名古屋大学出版会、2013)、「中世日本の世界像」(名古屋大学出版会、2018)など。

協力 ● 静岡県富士山世界遺産センター
長野の絵解きを広める会代表 小林玲子
長野郷土史研究会会長 小林一郎
名古屋大学 CHT 共同研究員 阿部美香